



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 田中、須谷

(電話) 06-6949-6435

令和8年7月14日

船員確保チャレンジ事業 児童養護施設と連携した船員確保対策事業を 大阪南港で実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業ですが、船員の確保・育成が喫緊の課題となっています。そこで、近畿運輸局と各海運組合事務局およびその傘下会員事業者を構成員とする近畿内航船員対策協議会では、児童養護施設の児童を対象に、海の大切さと船員の仕事について学ぶ海洋学習や船舶の操船シミュレーター体験、そして普段見ることのできない船舶の船橋等施設などの船内の見学に合わせ、船員の方から仕事内容等について直接お話を聞くことにより船員という職業に興味を抱いていただくことを目指す事業を計画し、日本内航海運組合総連合会が行っている「船員確保チャレンジ事業」に応募したところ、採択されました。

採択された事業は、3施設と連携して実施しますが、今般、関係各位のご協力を賜り“社会福祉法人 阪南福祉事業会 岸和田学園”と実施しました事業の内容をお知らせいたします。

実施日： 令和8年7月4日（土）
連携施設： 社会福祉法人 阪南福祉事業会 岸和田学園
 児童 16名、施設職員 5名
講師： 近畿内航船員対策協議会 上田 雄士 氏
協力： 株式会社商船三井さんふらわあ
 商船三井ミュージアム「ふねしる」



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！
海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

近畿内航船員対策協議会（会長：林 一男 田渕海運(株)取締役）は日本内航海運組合総連合会が行う船員確保チャレンジ事業の採択を受け、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢の一つに入れてもらえることなどを目的に児童養護施設と連携した船員確保対策事業を実施しています。

児童養護施設の児童を対象にチャレンジ事業を実施しました。

令和8年7月4日（土）大阪府岸和田市の社会福祉法人阪南福祉事業会岸和田学園の入所児童16名と施設職員5名の計21名を対象に、チャレンジ事業を実施しました。



海洋学習は近畿内航船員対策協議会の構成員である（株）辰巳商会の上田氏が講師を務め、日頃、「海」と「船」に接する機会の少ない児童に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、パワーポイントを用いて、わかりやすく説明を行いました。

講座の前半は、上田氏が大学を卒業して企業に就職し、その後転職して船員をめざした経験があることから、船員への転職のきっかけや、船員になって

良かったことなど、児童が将来の職業選択をする際に気になる実体験の話をしました。また、内航船員は3ヶ月乗船して1ヶ月休暇するサイクルがメインであることを紹介し、上田氏はこの1ヶ月の長期休暇中に趣味の海外旅行でたくさんの国を訪れることができたことを写真を用いて紹介すると、これに児童は目を輝かせて聞いていました。



そして後半では、日本の食料自給率に触れ、普段食べているパンの材料である小麦のほとんどが船で運ばれてきていることや、小麦に限らず、海に囲まれた日本にとって、

原材料や製品の輸出入を一度に大量に行うことができる船は、日々の生活にとって必要不可欠な輸送手段であることから、船員の職務の重要性や、やりがいの大きさを伝えました。



講座は、児童に質問やクイズを投げかけていく形式で実施され、答えたい児童から、たくさんの手が挙がるなど、終始、楽しい雰囲気が進んでいき、海洋学習は終了となりました。

その後、商船三井ミュージアム「ふねしる」に移動し、館内説明を受けた後、4班に分かれて操船シミュレーターの体験や、実際に乗組員が着用する制服を着て記念撮影などが行われました。操船シミュレーター体験では、途中で操船を代わりながらも、皆が船長になりきってゴールを目指して頑張っていました。



また、記念撮影では、実際の制服や帽子を着用して、敬礼など様々なポーズで何回も写真を撮影して盛り上がりました。



操船シミュレーター体験

そして、最後に「さんふらわあ」の船内見学です。車両甲板から乗船し、アトリウムに到着すると豪華な船内に児童は大はしゃぎです。

普段入ることの出来ない船橋に入って、船の説明や船内での仕事などについてお話があり、その後は、望遠鏡をのぞき込んだり、船橋内を隅々まで探検していました。

次に、客室の見学では、スイートやプライベートなど様々な種類の部屋や展望大浴場などを見学しました。残念ながら雨が降っていたため展望デッキには出ることは出来ませんでしたが、帰りは車両甲板までバスに迎えに来てもらって乗車するなど貴重な体験もでき、フェリーでのひと時を楽しんでいました。



さんふらわあの船橋

近畿運輸局では、今後も近畿内航船員対策協議会と連携して、海運の安心かつ安全な輸送に活躍する船員の確保のため、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を積極的に行い、「船員」の仕事が将来の職業の選択肢の一つとなるよう引き続き活動してまいりたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)